

2023年度 自己点検・自己評価公表シート

認定こども園エクレス

1. 本園の教育・保育目標

学園の建学の精神（わが学園は教育をとおして「努力心」「誠実心」「独立心」を養い、平和社会の建設に貢献する人間を育成することを使命とする）に基づき、「やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる」ことを教育・保育方針とする。

そのために次の6項目を教育・保育目標とする。

①楽しい教育

②義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての子どもに対する教育及び保育を一体的に行い、これらの子どもの健やかな成長が図られるよう適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行う。

③やさしく、たくましく、うつくしく、表現力豊かな子どもを育てる。

④「こころ」「ことば」「あそび」「表現」の“4つのつばさ”を保護者と共に育てる。

⑤個を大切にしながら、自立と自律の、発達を促す教育と保育を進める。

⑥遊びと学びを通して基本的な生活習慣を身につけ、生きる力を育む。

2. 本年度の重点取り組み目標・計画

【0～2歳児】

- ・保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係を築く。
- ・情緒の安定を図り、生活に必要な基本的習慣が身に付くようにする。

【3～6歳児】

- ・異年齢の関わりが持てるよう、保育内容を吟味し指導計画を立て、年齢に応じた援助を行う。
- ・異年齢保育を行う中で、次年度に向けての改善点を洗い出し、子どもの成長にとってより良い環境を考案していく。

3. 学年別目標・計画

0歳児	愛情豊かな保育士との触れ合いや応答的な関わりの中で、信頼関係の基礎を育てる。
1歳児	子どもが健康で安全に生活できる環境を作り、保育士との信頼関係を深め情緒の安定を図る。
2歳児	保育士と安定した関わりの中で、自分でしようとする意欲を育て、食事、排泄、睡眠、着脱等の基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。
3歳児	友達との関わりを持ち、色々な経験を通じて園生活を楽しむ。
4歳児	園生活に慣れ親しみ、基本的な生活習慣を身に付け、集団の中の一人として自立する。
5歳児	学級の中で一人一人が自己発揮し、自分たちで自主的に園生活を進めていくようにする。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<p>1. 教育・保育目標の理解と周知 教育・保育理念、教育・保育方針、教育目標について、教職員間の共通理解できる取り組みができていますか</p>	<p>学園の理念、園の教育・保育理念、目標については、朝の朝礼で唱和を実施しており、常勤職員においては共通理解ができています。今年度、途中入職の非常勤職員への周知方法として、基本マニュアルに記載した。共通理解をさらに深めるために、非常勤職員とのコミュニケーションを強化していく必要がある。</p>
<p>2. 教育・保育内容 教育・保育要領の理解、教育・保育指針を踏まえた指導計画の作成、保育の記録と次の指導計画への反映ができていますか 本園の特長教育について、実施方法を教職員間で話し合い、常に改善につなげているか</p>	<p>指導計画は、教育・保育指針を踏まえ、年齢に応じた園児の理解と発達状況に対応して作成ができています。日々の保育の記録を取り、園児のサポート状況等教職員間で情報共有するとともに、改善への取り組みもできています。 特長教育について、職員間でも理解度に関心があることがうかがえる。実施方法や見直し案など、話し合う機会を設けて改善に取り組んでいきたい。</p>
<p>3. 教育・保育環境 園児の自発的な活動、ねらいを達成できる用具・材料の準備、教材・教具の適切な活用、園児の実際の行動に合わせた環境への配慮ができていますか</p>	<p>教材・教具の適切な活用はできています。園児の自発的な活動を引き出し、ねらいを達成できる用具・材料を担当教員を中心に適切に準備し配置することができています。今後も理解を深めていくためにも、準備段階も含めて、提供方法などを勉強する機会を増やしていく必要があると感じる。</p>
<p>4. 行事 ねらいを理解したうえで実施しているか 行事の種類や回数は適切か PDCA 体制をとっているか</p>	<p>予定していた行事はねらいを理解したうえで概ね実施ができた。 ただ、行事と行事の間隔が短い時期があり、慌ただしさを感じるものとなった。今年度の反省を生かし、余裕をもった準備が行えるよう、行事の計画を立てる必要がある。</p>
<p>5. 教職員の役割・資質向上 専門家としての能力・良識・義務の適性、園児との共感、個の受け止め、能力の向上努力、他の教職員との連携ができていますか 新人教育の体制は確立されているか</p>	<p>専門的な知識・良識等については、ほぼ目標値を達成できている。 園児との共感、満足感や心の安定の提供、善悪の判断、思いやりの気持ちなどの育みは、適切な言葉・行動とも、積極的な働きかけができています。また、一人ひとりを大切に受け止め、個々の特性に合わせた指導もできています。 新人教員の育成については、指導マニュアルの見直しを随時行うなど、育成プログラムを逐次見直しをしていく必要がある。技術面だけでなく、精神面のサポートには積極的なコミュニケーションが必要。 OJT 職員は、傾聴の力を身に付けるような研修の機会も設けていきたい。</p>

評価項目	取り組み状況
<p>6. 特別支援教育</p> <p>当該園児についての情報の共有、家庭・医療・福祉等の関係機関との連携、特別支援についての理解を深めるための自己研鑽等ができていますか</p>	<p>当該園児についての情報の共有については、「個別の教育及び保育支援計画」「個別の指導計画」の見直しを行い、共通理解のもと支援体制を整えているが、該当教員へ情報をスムーズに共有できていない点が改善点となっている。運用ルールを構築し、該当教員へスムーズに情報が共有できる体制を整えていきたい。</p> <p>また、療育につなげられずにいる園児の対応については、保護者の理解を得られない等の課題も発生しており、職員の負担も大きくなっていると感じる。このような状況においても加配職員を付ける、保護者に園での様子を都度伝える、療育機関に相談をするなど丁寧な対応をしている。</p>
<p>7. 保健・安全指導</p> <p>避難訓練、交通安全指導の実施、健康・安全な生活の家庭への啓発、家庭・地域・関係機関との連携、施設・設備の安全点検の計画的な実施、アレルギー児への適切な対応ができていますか</p>	<p>避難訓練、交通安全教室等を計画に基づいて実施している。</p> <p>園舎・園庭の施設・設備の安全点検は、計画性を持って実施している。</p> <p>アレルギー児への対応は委託業者と連携をとりつつ、複数のチェックを行い、事故を未然に防ぐことができた。</p> <p>引き続き、安全・安心に利用いただける園であり続けるために、日頃の点検の徹底と、職員間、保護者様との連携を強化し、突発的な災害にもしっかりと対応できるようにしていきたい。</p>
<p>8. 保護者との連携・情報</p> <p>個々の園児について入園前から現状の家庭での生活の様子も把握し保育に活かしているか</p> <p>園での事故・問題等発生時の保護者連絡、園情報の発信は適切か</p> <p>保護者の園行事への積極的参加、園の教育・保育理解はできているか</p> <p>保護者からの要望や意見に適切に対応できているか</p> <p>守秘義務を厳守しているか</p>	<p>個人情報の取り扱いについては、法令順守の体制ができており適正に取り扱っている。保護者からの要望や意見には真摯に対応している。園内外で発生した事案について、ヒヤリハットとして個人情報を消去したうえで、職員間の共有を図り改善につなげている。</p> <p>保護者への行事参加については、コロナ禍前の体制に段階的に緩和し、以前の体制に戻つつある。</p> <p>保護者会役員・学級委員が集まる運営員会では園に対しての質疑応答時間を設け、欠席状況の見える化等、検討し、声を反映する形で実施できていた。</p>
<p>9. 子育て支援</p> <p>地域の子育て支援として、園庭開放等ができていますか</p> <p>就労している保護者支援として、横浜市の基準に即した預かり保育ができていますか</p> <p>未就園児支援として、保育や講座等を企画したり、交流の機会を設けているか</p>	<p>昨年度に引き続き、運動会や芋掘り、餅つき大会など、未就園児が参加できる行事を行った。また、今年度から「子育て支援」として年 13 回のプログラムを行い、子育て中の方同士が繋がりがあえる場所を提供できた。</p> <p>次年度は「子育て講座」を年間で 5 回予定し、外部から講師を依頼し、保護者の悩みに寄り添える対応をしていきたい。</p>

評価項目	取り組み状況
<p>10. 幼保小連携・地域交流</p> <p>地域の小学校との教育交流、地域住民の方への園行事等の周知、参加交流を行っているか</p>	<p>近隣の保育園・小学校の幼保小交流を、年長園児を対象に実施した。</p> <p>また、昨年に引き続き、茅ヶ崎台小学校の5年生による「教育漫才」の発表を預かり保育利用園児を対象に実施することができた。</p>
<p>11. 運営管理</p> <p>園内での職員の役割が明確であり、情報の共有ができていますか</p> <p>保育園部分と幼稚園部分の連携が取れているか</p> <p>保育室等の環境の整理・整備ができていますか</p> <p>ヒヤリハットを記録・共有し、教育・保育に役立てているか</p>	<p>職員それぞれが全体の中での自分の役割を自覚して職務にあたることができている。部門内の職員間の情報共有及び意見交換等については、職員会議に加え、グループウェアを活用し行うことができている。</p> <p>ヒヤリハットの記録についても、iレポートという仕組みができており、報告と検証を行っている。ただ、事故報告も混在している箇所もあるため、原因や解決までの道筋が分かりづらい状況になっているため、事故報告とヒヤリハットの記録については見直しをかける。</p> <p>幼稚園と保育園の連携については、決まり事の情報共有することはできているが、積極的な協力体制とまではいかない。場所が離れているという難しさはあるが、逆にそれをメリットととらえ、保護者へのサービスレベルを一段階上げていきたい。一つの園であるという意識を一人ひとりの職員がさらに持てるよう意識改革を継続していきたい。</p>
<p>12. 特長的な教育</p> <p>モンテッソーリの教育理念を理解しているか</p> <p>モンテソーリ教育を取り入れている意味や目標を理解しており、内容・提供方法について、前向きに取り組むことができているか</p> <p>「表現教育」とは何かを理解しており、内容・実施方法について、率先して取り組むことができているか</p> <p>異年齢保育を取り入れている意味や目標を理解しており、率先して取り組むことができているか</p>	<p>経験年数が長い職員においては、モンテッソーリの教育理念を理解し、教具教材の直接目的、間接目的を理解できているが、新人については、担当教員の援助が必要な状況。年間をととしてしっかりサポートをしていく必要がある。</p> <p>異年齢同クラス編成については、その意味を理解し、個々に応じた援助、保育展開ができているが、理解度には個人差があることが伺える。園内の研修を活用し、異年齢クラスの経緯やねらいを周知していく必要がある。</p> <p>職員の知識レベルをUPするための研修等も定期的に行っている。</p> <p>次年度は、特別教育を、さらなる教育効果が得られる方式に変更して実施する予定。</p> <p>「楽しい教育」を教育のテーマとして、教員自身が楽しんで取り組み、子どもたちが笑顔で楽しめる教育の場を提供し続けていきたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み
1. 教育・保育目標の理解と周知	非常勤職員に向けてさらなる目標の理解と周知を徹底する。メールの活用等周知方法を構築する。
6. 特別支援教育	
3. 教育保育環境	モンテッソーリ教材の提供のねらいや提供方法、園児への言葉かけや対応等、全職員が同じレベルで提供・対応できるように、研修の機会を多くとる。
4. 行事	他業務や準備期間を考慮し、行事の実施間隔を見直し、余裕をもって取り組めるよう、行事の実施時期を見直す。
5. 教職員の役割・資質向上	新人（経験値の浅い）職員の育成プログラムの見直しを継続的に行う。
11. 運営管理	ヒヤリハットの記録については、事故報告も混在している箇所もあるため、原因や解決までの道筋が分かりづらい状況になっているため、事故報告とヒヤリハットの記録については見直しをかける。 保育園との連携については、事務連携でも課題があるため、教員の声を聴きながら、利用者の保護者や子ども達が混乱しないシームレスな連携を目指して、現状の体制を見直す。

2024年3月13日